

リニューアル第1号(通算第7号)
1996年(平成8年)11月発行
新生せいふ館に合わせて紙面も変わりました!
新らしい「せいふ館」への貼り思いと
'95阪神大震災の鎮魂が今号のテーマです。

せいふ館通信

(財)合氣会神戸支部 せいふ館
支部長: 中尾真吾
〒650 神戸市中央区下山手通8-20-17
えぬビル3階 白蘿林(はくろりん)内
Tel (078)382-1659

昨日、今日、そして、明日へ…

中尾真吾/五段/神戸支部長

あれから1年9ヶ月。6千人の命を奪った阪神大震災は、20万棟の家を壊し、40万世帯が生活の基盤を失った。

そんな神戸の街に、合気道の道場「精武館」改め「せいふ館」がオープンします。

昭和30年初期に、合気会神戸支部「精武館」として発足した道場で、多くの人達が平和の武道を連綿と楽しんできました。そこで色々な経験を積みました。

「せいふ館」の「せいふ」は産みの親であり育ての親である山端一夫前支部長、横田金典前道場長の遺志を継いでいこうという思いです。又「せいふ館」の「せい」は私淑した今は亡き山口清吾師範、遠藤征四郎師範の「せい」でもあります。

30数年にわたる古き佳き伝統を踏まえ新しい息吹を注ぎ込み、植芝盛平翁が望まれた合気道をこの神戸の地で目指そうと思います。そして諸先輩達が追い求められた道を、爽やかに表現したいと思っています。

新しい皮袋は12月22日に出来上がります。それに見合う魂を入れていくことが、これから目標になりそうです。

記

道場開き 平成8年12月22日(日)



はくろうりん 白蘆林

中尾明子/二段

地震、雷、火事、親父。やはり、この順番通りやな…。火事を2回も経験し、角が7本あるんやと言っていた義父と5年暮らした。しかし、地震は怖さが違った。いつ又起るか気の付けようのない天地自然の怒りには絶対逆らえない。

でも、お陰様で今、命があり、店が無事。そして巡り巡ってひょんな事に、かねてからの念願だった60畳の道場を建ててしまつたのだ。

今日午前の稽古で、26歳の若者に「なにかおかしいですか」「えっ、どうして。何もないよ」「いやー、だってすごく嬉しそうでいいきいてるもん。少女のようやん…」と言われた。実は、45歳の誕生日。こんなに楽しそうにやってていいのかしらん。まあ、いか。合氣道だから許されるんだ！

21世紀の武道は合氣道

私達は青少年活動を通じて知り合つた。お互いに、白木を磨いていく様な人生を歩もうと。それから23年。私も合氣道にはめられて12年。

ここに、“下村湖入”的『次郎物語』という本がある。時代は大きく違うけれど人の求める道は変わらない。文明のあまりの発達によって地球が汚れ、道が見にく

くなっている。できるものなら青少年健全育成の場を作りたかった。そんな夢をずっと持ち続けていた。そして今、現実になった。老若男女を問わない、世界の合氣道はまさに私達の理想にピッタリ。皆でそれぞれに練り合い、教え、教えられ、励まし合つて稽古を楽しく続けていきたい。ある道を求めて…。

せいぶ館の前に「白蘆林」という名を付けたいと思う。その本の中に「白鳥入蘆花」という掛軸が出てくる。そこから拝借させてもらつた。我々の初心を忘れない為に。

そしてより豊かな“生”を大事に送つていきたい。自然のお迎えが来る迄…。

私と震災と合氣道

打越明夫/五段

この度のせいぶ館道場の完成おめでとうございます。

今思い返してみてもなんと夢の様です。平成7年1月17日朝、考えられないような出来事が起こりました。住んでいたマンションが全壊したのです。部屋の立っていた物は全部倒れ、家族3人はその下敷きです。生きているのが不思議。実体験した人しか分からぬすさまじい出来事です。これも合氣道をやっていたからか、合氣道の仲間は皆元気だった。きっと開祖のおかけです。

前日は休日で、合氣道の仲間と

午前中アイススケートを楽しんで食事をして、またねと別れて次の日に地震が…。人間は、いつもでも生きられて、自分だけは大丈夫と思いがち。ところが、30年間住み慣れた大好きな神戸があつという間に崩れた。

寒空の中、パジャマのまま近くの小学校に避難する。その時にすでに何千人の人が死んでいた事も知らずに。学校には1600人の人々が、車の中、運動場、道路で野宿。老人、赤ちゃんのいる家族は大変な事だった。5日間そこで暮らした。

その後合氣道の仲間の車で見のいる奈良の方に避難する事が出来た。1週間ぶりの風呂に入つたときは生きてて良かったと思った。休日に奈良公園に家族と行ったとき、何とのどかで平和な別世界だろうと思ったことを一生忘れないだろう。明日から又、水、ガスの出ない空気の悪い神戸に帰るのがいやでたまらなかつた。

道場の3階で2~3ヶ月、単身赴任の生活です。その後、奈良から神戸へ毎日往復5時間かけて通勤した1年間はつらかったです。今年4月にやっと神戸に家が見つかり、引っ越しして元の生活に戻れた。でもまわりには仮設住宅がいっぱい、複雑な気持ちです。皆様がんばつて。

たくさんの合氣道仲間のおかげです。食事を運んでくれた人、マンションの片付け、引っ越しの手伝い、先生方の励ましの電話。ほんとうにありがとうございます。

した。涙を流した分だけ頑張ろうと思う。自分の家族のことだけでも知人の家族の事は悲しくて書けない。合氣道の稽古は1年位は出来ないなあ、と言いながら中尾さんと別れたのが震災から5日目だった。10日程して「もう稽古やってるで」と彼からの電話。家も店も倒れかけなのに何とたくましい。仲間を励まそうとがんばつてくれた。

早く神戸に帰つてこいという皆様のラブコールが嬉しかつた。12月には中尾さんの建てた60畳の広い道場が出来る。皆さんと力を合わせ気を合わせて、楽しい魅力ある道場にするため少しでもお手伝い出来ればと思っております。

全国の合氣道を愛する方々へ、神戸の新しい道場にぜひ来てください。お願ひします。

私と震災と合氣道

小坂君子/三段

平成7年1月17日のあの地震のことは生涯忘ることのできない大きな出来事です。私の場合、家は半壊ですみましたが、仕事の方がひと苦労でした。

まず“電車がない！” あの日から、伊丹～神戸まで片道2時間の自転車通勤（痛勤）が始まりました。当初は道がデコボコ、つぶれた家が道をふさいでいる。傾いたビルが今にも倒れてきそう…といった状態でした。

灘区にある職場（子どもの通園施設です）は無事でしたが、子供の安否確認のみで当分は休園。私は、家から比較的近くにある東灘区の避難所へ応援に行くことになりました。全く面識のない人たちの主に食事、身の回りのことをお世話させてもらいながら寝食を共にし、わけのわからない日々を過ごしていました。

あの時、水がない、ガスがない…といった生活をはじめて経験しました。普段、当たり前と思っていること、していることが実はそうではない、“ありがたい”ことなのだとということを実感しました。

あの地震で6000人以上の人々が亡くなりました。私にも以前担当していた子どもや保護者、あるいはその兄弟といった方が亡くなり、また、大ケガを負った知り合いが沢山います。生命（いのち）の尊さや人のやさしさ、家族の愛…といったことをひしひしと感じたものです。

混乱した状況の中でしたが、1ヶ月も経つと生活が落ち着き自分の時間が持てるようになりました。私がまっ先にしたことは“合気道”です。リュックに道着、持を入れ、自転車での道場通いは、背中にくいこむリュックの重さがこたえました。しかし、それ以上に合気道がやれることがうれしくて、合気道を再開したとき、はじめて、普通の生活（今までの生活）をとりもどしたなあと感じました。

今まで長い間合気道をしてきて、1ヶ月もしなかったというのにははじめての事です。それほど私にとって合気道は“生活の一部”になっているのです。

地震をきっかけに、長年通っていた石井町の道場が無くなったのはとても残念ですが…中尾さんの第二道場が無事で本当によかったです、ありがたいなあ！と思いました。

今度新しくなった道場で、これから先もずっとずっと合気道を続けていきますので、みなさん、よろしくおねがいします。

最後になりましたが、あの時、神戸以外の所から、たくさんの励ましや援助をいただきありがとうございました。この場をお借りしてお礼申しあげます。

武道との出会い、人と の出会い

福長章/三段

昭和54年の初夏、得意先からタクシーで帰社の途中、交差点で停車中に時速30キロの車に追突され、ムチウチ症になった。

当時、親会社から子会社に配転されたショックの他、親会社では仕入を担当していて、営業に自分の方針を押し付けておけば事足れた環境に反し、子会社では営業をさせられ、小規模な客先を相手に月々の目標が達成出来なくなつて苦しんでいた時の事であつ

た。

整形外科、接骨院で治療を続けたが一向によくならず、このままでは定年まで生きられないとの目立てに茫然自失していました。

ある鍼灸院で治療を受け始めた時、少し楽になったような気がした。その鍼灸院の先生は私より10歳くらい若く日本拳法の4段であったが、ある日私に合気道で頭を強化したらどうかと十三の道場の地図を書いて下さった。

十三で頭の強化と受身ばかりしていたが、83キロの体重が2年で64キロになった。道場の同輩は私がいつやめるか賭けをしていたそうである。彼らは金魚腹が少年のようになったと誉めてくれた。その後豊中の道場にかかり、豊中市立武道館「ひびき」及び広済堂等で初心者の指導を8年間させていただいた。居合道のコースがあったので、合気道を向上させるため入門した（英信流）。

遠藤師範には広済堂で3回御指導いただいたが、1回の稽古がその他の稽古の半年分に相当すると感銘を受けた覚えがある。

6年前の体育の日に「ひびき」で打越先生に一教の指導を受けたのを機に、次は神戸で習いたいと思っていた。

一次定年で退職後「抜苦与樂」をモットーに鍼灸師養成学校に入学し、卒業後、中尾先生の朝稽古に来させていただいたのが縁で、先生のお世話で宇治川商店街に小さな店を開業し1年になる。

私の同年輩の半分は会社を退

職し、無為の毎日を過ごしているが、私にはやりたい事が沢山あるので毎日が楽しい。少なくともあと10年は、合気道を週3回、居合道を週1回稽古させていただきたいと思っている。人生にはいろいろな事が生起するが、楽しいときも、苦しいときも稽古を続けることが肝要と考えている。

私の理想とする合気道、居合道をご教示いただける先生方に出会えた事がまさに幸いであったとしみじみ思う昨今である。

阪神大震災と私

フランクアダムス/二段

あの大地震を振り返ってみると、私や私の周囲の人たちの生活がどんなに影響を及ぼされたことかと複雑な思いがします。まず第一に、私の家族や合気道仲間が皆無事でよかったということです。さらに、周囲の人たちのようにホームレスにならなかつたのは本当に幸運だったのだけれど、唯今「失業中！」なのです…。

ガスも水も使えない中、生後わずか3カ月の娘を抱えて、突然失業してしまったこともあり、3月から予定していたアメリカへの里帰りを繰り上げてすぐ実行に移すことにしました。結局、日本を離れるのは1週間ほどになるのですが。

周囲の人々をそのままに日本からアメリカへ「脱出した」ことについて今でもかなり後ろめ

たさを感じています。でも、結局のところ「しようがない」としか言いようがありません。

アメリカにいる間、色々な道場で多くの人々と合気道の稽古をしましたが、アメリカの合気道では日本で合気道を稽古していく感じられる“あの言葉であらわしがたい一体感”を感じるられませんでした。

ともかく、今は「あの時」ばかり振り返るのではなく、開館間近な新生「せいぶ館」道場という希望あふれた「これから」に向かって進みたいと思います。現在の「精武館」道場(私にとっては今も“第二道場”的ままです)が終わりを告げるのはとても悲しいことです、それにもまして、大きく新しくなった「せいぶ館」道場で合気道の稽古ができることに喜びと意気込みを感じています。

稽古では指導の先生方や稽古仲間から多くのものを学んできましたので、これからは後に続く人たちにこれらを伝えていきたいと思っています。このようにして、開祖が望まれていた合気道の輪を広げていくことができるのではないかと思います。今もこれからも、このことを肝に銘じていきたいと思います。

最後に、我々一同が共に新道場で合気道を稽古するという夢を実現するため、私財を投じていただいた“太っ腹”な中尾さんご夫妻に心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。皆さん、新しい道場のオープンを機に大震災

を忘れ、合気道の輝かしい未来に向かって突き進みましょう。

追伸：中尾さん、新道場のある限り稽古を続けますのでどうぞヨロシク！！

第二道場弟子第1号 の感慨

池内信也/二段

おかげ様で、今年で合気道を始めて10年になります。例えば、1週間に3回以上などという稽古を重ねたわけではなく、2週間あるいはそれ以上の間隔があきながらも続けて来れた10年間でした。

恐れながら、私は他に1つの物事を継続してやれたことが(仕事でさえも?)ないのでして、その点大いに自慢できるのではないか?と思います。

ともあれ、楽しみながらそして、腰痛などに苦しみながらもやってきましたが、やはり腰に関しては、今年2カ月以上稽古できなかつたという故障を負いながらも、またこりずに続けています。

新道場ができるとの事。旧道場の弟子1号としましては、なんとなく感慨深いものがあります。今までに教わった事に加え自分なりに技に工夫が必要ですし、今度は何か貢献もしなければなどと思っております

新生せいぶ館

品川高宏/二段

朝稽古は気持ちがいい。本当に気持ちがいい。しんどくなれば休もう。そう思いながら続けて約2年が過ぎた。今でもしんどくなれば休もうという気持ちに変りはないが、多少のしんどさも稽古後の爽快感には代えられずせっせと足を運んでいる。

合気道はおもしろい。本当におもしろい。つまらなくなったらやめよう。そう思いながら続けて8年になった。今でもつまらなくなったらやめようという気持ちに変わりはないが、全くそういう気持ちが起きずせっせと足を運んでいる。

その間にいろいろあったが、今年震災により全壊した精武館が新生せいぶ館として生まれ変わることは、神戸支部としては大きな区切りとなるような気がする。

私自身は気持ちよく、おもしろいと感じている限りせっせと足を運ぶだろう。

そういういい加減さを教えてくれた精武館に感謝している。新生せいぶ館でいい加減さに磨きをかけよう。

合気道は試合がない。勝敗のないところの精神の崇高さがある。知った様な顔をして事あるごとに言っていた。忙しくて稽古したくてできない時があり焦っていた。何を焦っていたのか分らない。彼は何回稽古している。彼女はこれだけ稽古している。どん

ん上達していくではないか。負けたくない…。「何言ってるの。合気道に勝敗はないと言っていた本人が一番勝敗を気にしているやないの」合気道の良さを教えていたつもりの妻は実は私よりも本質をつかんでいた。以降私の妻に対する合気道解説はぱったりとなくなってしまった。

師はどこにでもいる。思いもかけずに現れる。

合気道を通じていろいろ学んでいる。学んだことを表現できる合気道に魅力を感じる。文章にするところなるが、本当はそんなことを考えずに楽しんでいるだけなのだ。

最近うれしかったこと

西垣保孝/二段

新道場の完成おめでとうございます。私は精武館に来て4年になりますが、2年目に大震災があり、それからは旧精武館第二道場で稽古をしています。また新道場で大勢の方と稽古出来るのが楽しみです。

さて、私事ですが、最近また少し合気がおもしろくなっています。強い方の中には小柄な人、女性も多く、私はいつも簡単に投げられてしまい、夏の稽古でよく息があがっていました。相手の女性は一向に息もあがらないと見ると、体力に男女差はあるのかなとふと思ったりする時もありました。技こそあまり上

手になったと思いませんが、合気の「気」なるものを少し触れるようになったと思います。これまで相手の動きを見てから動いたり次の動きが分かってから動き始めたりしていた稽古だったと思いますが、それではラジオ体操と変わらない、ということに気がつきました。

精武館で今までに印象に残った稽古や稽古中に聞いた言葉はたくさんありますが、中でも稽古始めに手刀を合せて切れないように捌く練習や、片手取りの入身で入身に捌く時、相手との接触部分の当たりを大事にするように教わったことも、「気」なるものを少し触れるようになったきっかけになったと思います。気の動きは体の動きを作っているのかな、と思っていたことを、最近少し身をもって感じる事が出来ました。それがとてもうれしかったことです。

二段になつて

古林昌純/二段

今では生活の一部にまでなつてしまつた合気道。ここまでまるとは正直思わなかつた。始めた理由は単純で、「強さ」に憧れていたと思う。ボクが初めて見た合気道は、小さな女性が、「りん」とかまえて学生を投げ飛ばしていた姿でした。

たつたそれだけの瞬間でしたが、ボクにしてみればそれがたま

らなく魅力的で、その姿をずっと目指していた。その女性はボクに合気道を基礎から教えてくれた先生です。

決して今のボクに先生の形が残っているわけではないけれど、目指すものは今もその時も変わらないしきっと同じことをやっているのだと思う。昇段して何か違うこともやらなければとおもつたのですが、肩の力を抜いて今までと同じ様に楽しく稽古しようとおもいます。

あと、いつも自分に夢中になつてよくないのがボクの癖ですが、ここまで支えてくれた道場の人々に感謝しています。二段なつたからには、自分のことより他の人の為に稽古していくことも大切なので、もっと人に与える合気道ができたらいいなと思います。

Beautiful Ladies Class

榎本久美/初段

火曜、夜7時～8時、Beautiful Ladies Class（初心者歓迎）。でも、中を覗いてみると黒帯の男性がいるのです。全体でも男性の方が多いのです。なぜ？

火曜お昼のレディースにならない、お昼に参加できない女性や初心者が参加しやすいようにと始まったクラスです。

1995年1月にはじまって早々に地震。私自身、なかなか住居も定まらず、仕事・日常生活の変化、たくさんの出会い。いろい

ろな出来事がいっぱいあり、このレディースクラスは何年も前にスタートした気がします。

稽古を始めてまだ5年ほどの私が人の前にたつというのはおこがましい事だと思いますが、多くの方に応援していただき、ここまで続けてこられました。前では楠本さんに受けを取ってもらい、協議しながらの毎回です。

最近1週間の稽古の中で火曜日の稽古が一番楽しい時間と感じる事があります。あつかましいけれど、自分の時間が一番楽しいと感じる瞬間があつてもいいのではないかと自分を励ましています。

私に技が教えられるわけではないけれど、稽古を楽しくしたい。受けを恐がらずに取れるようになりたい。無駄の無い身のこなし出来るようになりたい。そんな思いで稽古を進めています。

新道場オープンまであと数えるほどになりましたが、今出来ることを精一杯やってみたい。

カナダ合気道記

野田和利/初段

「オネガイシマス！！」威勢のいいかけ声で今日の稽古が始まった。ここはカナダ。ブリティッシュコロンビア州にあるネルソンという街の合気道場。遠い日本からきた僕は何故かここでも合気道をしている。

指導者はジャン・ルネ先生。4

年くらい前まで、横浜の武田先生のところで合気道をしていた人で、日本語もとても上手だ。この道場には昔、精武館で合気道をしていたフィリップさんやミリアムさんもいる。（ただし、この時ミリアムさんは風邪をひいていて稽古はお休みでした）

人口1万人足らずのこの街で、だいたい1回の稽古に6～8人来るそうで、子供クラスもあった。メンバーも地元の人だけでなく、ドイツからの旅行者や、留学生と多種多彩。（余談。先述の旅行者は何と1年間もこの村にいるそうだ。旅行者として…）

年配の人もいれば若いオネーさんもいる。子供と一緒に習っている人もいれば、夫婦で練習している人もいた。

そして何より皆元気。ハードな稽古を一度も休まず最後まで続いている姿に驚いた。（何せ、白帯は稽古の最後に70～80回の受けをとらなきやいけない）また、稽古中は皆ずっとスマイルを崩さない。初めて一緒に稽古したのに全く初めてという気がしない。

カナダの夜は冷えるというのに、汗たくになって稽古してしまった。そして稽古の後は近くのレストランで乾杯。おいしいシーフード料理とともにカナダの夜は更けていくのであった。

リラックスと集中力

東利一/初段

リラックスすることと集中することは両立できるのか。私は合気道をやるようになってから常にそのことを考えてきた。何事も楽しむためには力を抜いてリラックスしなければならない。しかし、リラックスを意識しすぎるとだらけてしまう。集中でなく分散している自分の気持ちがそこにはある。一方、集中しなければと思うといつまにやらそれが緊張感に変り、気づくと(気づかないことも多いが)力んでしまっている。やはり、リラックスと集中力はそもそも水と油のようなものではないか。一方を考えるとき敢えて他方を意識しないと両立しないのではないか。そんなふうに考えていた。今年の夏までは。

高校野球を観ていると、「無欲の勝利」という言葉が新聞をにぎわることがある。誰でももし自分が選手だったらどんな気持ちか想像しただけで緊張するだろう。何せ何万人の観客の前でプレーするのだから。今年の夏、私は田舎の鹿児島実業をそんな緊張感を持ちながら応援していた。しかし、無欲の勝利にはそんな肩の凝るような緊張感は無用である。家内に言われたのだが、昨日も今日も大好きな野球ができる。もしかしたら明日もできるかもしれない(しかも大観衆の前で)。そういうのが無欲の勝利ではないかと。

無欲。それがリラックスと集中力を両立させる接着剤ではないか。今自分に課されていることは1年前、1ヵ月前…の自分だったら無理なことだったかもしれない。しかし今の自分だから課されている。チャンスを与えられている。それを楽しもう。そう思うだけで、「進歩した自分」に喜びを感じることができる。余計な緊張感はなくなり、リラックスできる。野茂が「ファンには悪いが自分のためにメジャーを楽しんでいる」と言ったのは、近鉄ではなくドジャースにいるから経験できるメジャー独特の大プレッシャーを感謝にも似た気持ちで言ったのではなかろうか。

これを最後まで読まれたあなた。次の昇段昇級試験は決して緊張するわけがない！？。

合気道復活！

片山瑞穂/1級

「合気道ってどんなことするんですか？」
「えーっと、合気道というのはですね…」

今年、私は就職活動でした。活動中は履歴書が必ず必要で、自己PR・趣味を書く欄には悩まされました。自己PRは適当(私が得意とする所)に書いたものの、趣味は何にしようか？ 読書・旅行ではつまらないし、インパクトの強いもの、やっぱり合気道かな？ でも2、3年サボっているし…と

悩んだ末、読書・旅行と書いた後、隅っこに小さく、しかししっかりと合気道と書きました。目立たないよう?に書いたはずなのに、面接では、人事の人が私に聞くことといったら、「片山さん、合気道して何年ぐらい経つの？」 「へー強いんやね、どんなことするの？」など合気道の事ばかり聞かれる始末。私は、「サボってます」などと言えるはずもなくとりあえず、中尾先生の受け売りよろしく、ペラペラと合気道の極意?をえらそうに説明しました。合気道の話で盛り上がり、無事内定したのはめでたいことだけれども、実際できなかつたら危険だ！と思い、あわてて合気道の練習を復活しました。

復活した動機は不純だけれど、チャンスを生かし再び合気道ができるよかったですと思っています。中尾先生を始め、精武館の方達も暖かく迎えてくださり、合気道が楽しいと感じるようになってきました。

今、私は朝のお稽古に参加しています。毎朝、中尾先生の少し寝ぼけたラブリーな顔を見るのが、私の楽しい日課になっています。

サボっていた分、輸をかけて下手になっていますが「サボらず頑張ろう！」継続は力なりと、ひしひしと感じる今日この頃です。皆さんこれからもどうぞよろしくお願いします。

私にとっての合気道

福永吉伸/3級

合気道とは何ですか？」と聞かれると、答えに困ってしまう。自分なりの現段階での解釈を述べにしても一言では足りないからだ。そんな時、私は、一度道場に足を運ぶように勧めることにしている。それぞれの人のフィーリングで、自分が良いと思った稽古方法を取り入れ、精進を重ねる奥の深いものである。

私はあまり深く考えず、趣味として楽しく続けて行きたいと考えている。だらけがちな学生生活も、朝練に来るときのものになる。早起きすることで、合気道は上達し残りの一日も有効に使えるので一挙両得である。そのためか、最近は合気道の稽古を楽しいと感じるようになった。趣味として楽しく続けられれば、人生の大きな財産になる。

合気道のすばらしさは、武道でありながら人を痛めつけることを目的としないところにある。むしろ相手と調和することが大切なではないだろうか。このことは合気道に限らず、ふだんの生活の中でも大切だ。例えば、相手と交渉するとき、相手の立場を理解し、双方が納得できる案を出せば、一方的にこちら側の意見を通すよりもうまくいく。対人関係のみならず、国家間の関係、その他のあらゆる事柄をスムーズに運ぶためのヒントが、合気道にあるように感じるがどうであろう。 ▽

話しが少し横道にそれたが、今回の新道場完成は、震災から復興しようとする神戸にとっても、すばらしい出来事である。震災に耐えた古い道場も名残り惜しいが、これを機に、私自身もますます稽古に励みたい。そして、合気道を通じ、全国の人々と交流し、友好を深めることが出来ればすばらしい。そのためにも、自分自身が出来る限り続けていきたいと考えている。新道場の完成、本当におめでとうございます。

私と合気道

島石雅子/3級

合気道を始めてから、ようやく2年が来ようとしています。この度三級に昇級させて頂き、本当に有難うございます。

始めた当初は、とにかくわけがわからぬまま、やっておりました。最近になって、本当の難しさに気がついた、というところです。

稽古の翌日は必ず重症の筋肉痛で、階段が昇れない、とか腕を伸ばせない、という頃が続きました。しかし、それも最近は随分ましになりました。こんなに休んでばかりの私でも、少しばかり身体が変わってきたのかな、と考えています。

合気道を始めたことで、人との出会いも、広がりました。生き方、考え方、刺激を受けることばかりです。何よりも、合気道をしている時は、本当に合気道の事だけしか頭の中にはない、というのが大切

なことです。他のことをしてもこんなことはありません。マイペースで続けていきたいと思っています。

私と震災と合気道

前田裕昭/4級

もう何年も前のこと、すっかり忘れてしまっていたが、最近思い出したことがある。知人に誘われるままに義理で観た『松風』。ただ謡に合せて舞台を巡る繰り返しに退屈を覚え始めた時、突然に私の目は舞台脇に釘付けになった。控の姿のそれは美しいこと。さらに、すくと立つ。滑るような足の運び。また控えて静かに座す。何やら意味不明のまま、茫然とさせられた記憶だ。

精武館の門を叩いて一年余。通い始めたのは震災の年夏だった。失意と悲嘆から、うつむきかげんに動く街。私も暗鬱な気分を拭いきれないで居た。しかし、そうした中で、道場で出会う人達は違ったのである。聞けば、それ程度の差はあれ、被害は決して小さいものでない。だが、企てなく、跨ぐでなく、臍するでなく、端然と座し札をする。会話も明朗快活。その姿勢が、当時の私にとってどれだけの救いとなつたことだろうか。そうした姿に触れて、先述の記憶を呼び覚まされたのもご理解頂けると思う。

独座大雄峰。今の私は、そうした座起への純粋な憧れと、またひ

とたび稽古を重ねられる充実に導かれている。

合気道を通しての “ふれあい”

杉利秀/4級

私が合気道を始めて、はや4年半になります。その間、来たり来れなかつたりの繰り返しで、私の合気道はちっともうまくなっていますが、今日まで合気道を続けて来られた大きな理由は、合気道を通して数多くの気持ちのよい人々との交流、“ふれあい”を楽しむことが出来たからです。

道場に行けば、いつも笑い声が絶えません。陽気で心地好い雰囲気が、いつもそこにあります。たとえどんなに疲れていても、またたとえどんなに気分が沈んでいても、道場に行って合気道を練習しているうちに、私自身が心身ともにほぐれていくのを感じるのです。まるで柔らかな木漏れ陽の中にいるような、そういった心地よい空間と優しい時間の流れとが、道場にはあるのです。

私は合気道を通して、多くのすばらしい人々と知り合うことが出来ました。それは合気道そのものの以上に貴重な、生涯の財産です。彼女等、彼等との“ふれあい”がある限り、そして“癒し”の場としての道場がある限り、私はこれからも合気道を続けていくつもりです。

旅の話

田中利幸/5級

私は自転車で旅をしました。8月15日より22日まで北海道登別でクラブの合宿があり、その後、帯広の知人宅で、山小屋、乗馬、チャンチャン焼きなど正に北海道という体験をし、別れを惜しみつつ、9月4日、自転車で最北端宗谷岬を目指し出発、無人駅などに泊まりつつ、五郎の家を見たりして、8日、この日出合ったおじさんと共に宗谷岬に到着。感無量。そして札幌洞爺湖を通って16日函館到着、ぎょうざ屋で知り合った地元の方と函館を観光し18日フェリーで青森へ。いとこの結婚式が21日東京であるのを知り、3日半で青森→東京720キロを走破。結婚式に乱入。静岡ではTV出演したりして、10月6日朝、2カ月ぶりに神戸に帰ってきました。旅の醍醐味は人の出会いです。出会いを通して私は少し成長しました。「一期一会」。出会いを大切にしたいものです。人生という旅の中で、合気道を通していろいろなすばらしい出会いがあることを願っています。さて、次は四国と九州だ。

編集後記：中尾さん、夢の実現本当におめでとうございます。素晴らしい技、心服できる師、素敵な人との出会いがあればこそその合気道だと思います。せいぶ館がぜひそういうものを産み出す場となるよう希望しています。小生もこれから先、垣間見た合気の技を追ししるべに稽古していきたいと思っています。今後ともよろしくお願ひいたします。(△○↓)

合気道について（入門希望者の方へ）

合気道は昭和の初め、不世出の武道家といわれた故・植芝盛平翁によって創始された武道です。植芝盛平開祖を道主として昭和23年に組織されたのが財団法人・合気会で、その後、子息の植芝吉祥丸現道主に受け継がれて現在に至っています。

(財)合氣会は国内外に約150万人の登録者を持つ、合氣道の正統的かつ最大の組織です。せいぶ館道場は、昭和34年に神戸支部として発足し阪神大震災で閉鎖のやむなきに至った精武館道場を引き継いでおり、長い伝統と共に創立以来の自由で明るい気風を特色としています。

「合氣道とは何か」。植芝盛平開祖は合氣道について次のように語っています。

○ある日、井戸端で汗を拭いていますと、急に目にもまばゆいばかりの金線が、天から無数に降ってきて、体をすっかり包んだかと思うと、こんどは、みるみるうちに体が大きくなって、宇宙一杯になるくらい大きくなってしまったんです。あまりのことに呆然としているとき、はっと悟ったんです。「勝とうと思ってはいけない。武道は愛の構えでなければならない。愛に生きなければならぬ」と悟りましたが、これが合氣道で、昔の正眼の構えです。そう気がついたら、今度は何故か有難くて有難くて、涙がこぼれてきて仕方がありませんでした。

○合氣道は相手の力を全面的に利用してしまうんです。だから相手に力があればあるほどこっちは楽なんですよ。合氣道では絶対に攻めない。攻めるということは、その精神がすでに負けることを意味するんです。徹底した無抵抗主義で相手に逆らわない。だから合氣道には相手がない。相手があっても、それは自分と一体となって自在に動かせる相手なのです。

○合気は絶対に相手に逆らわない。突いてきても、切ってきても要するに一本の線であり、点であるからそれをよければいい。

合気道練習上の心得

合氣道圖說・植芝盛平著

- 一、合氣道は一撃克く死命を制するものなるを以て 練習に際しては指導者の教示を守り
徒に力を競ふべからず
 - 二、合氣道は一を以て万に当たるの道なれば 常に前方のみならず四方八方に対する心掛けを
以て練磨するを要す
 - 三、練習は常に愉快に実施するを要す
 - 四、指導者の教導は僅かに其の一端を教するに過ぎず 之が活用の妙は自己の不斷の練習に依
り初めて体得し得るものとす
 - 五、日々の練習に際しては先ず体の変化より始め 逐次強度を高め身体に無理を生ぜしめる
を要す 然る時は如何なる老人と雖も身体に故障を生ずる事なく愉快に練習を続け 鍛錬
の目的を達する事を得べし
 - 六、合氣道は心身を鍛練し至誠の人を作るを目的とし、また技は悉く秘伝なるをもって徒に他
人に公開し或いは市井無賴の徒の悪用を避くべし

兵は児器なれば一生用ふることなきは大幸といふべし（練兵館・齋藤弥九郎道場）

- ・万が一ケガをした場合は、当事者同士で解決して下さい。
スポーツ保険は各自で加入して下さい。(毎年3月末で切換えです)
 - (財)スポーツ安全協会
〒650 神戸市中央区下山手通 4-18-2 兵庫県健康公社内 (078)232-9651
 - ・会費は、前納した最終月の末までに、数ヵ月分を納入して下さい。



(財)合氣会神戸支部 せいぶ館 支部長:中尾昌吉 / 道場長:浜曾正司

〒650 神戸市中央区下山手通8丁目 20-17 元ぬビル3階 白薔薇内 Tel (078)382-1659